

短 報

# 新型コロナウイルス感染拡大下で 看護学実習に臨む学生の思い

Thoughts of Students before Nursing Practice during the Covid-19 Pandemic

高岡 寿江

TAKAOKA Hisae

石堂 たまき

ISHIDO Tamaki

藪下 八重

YABUSHITA Yae

## 抄 録

新型コロナウイルス（以下、COVID-19）感染拡大下で3年次の看護学実習に臨む学生の思いを明らかにすることを目的に、履修予定者68名を対象にGoogle Formsを用いた質問紙調査を実施した。思いの状況は4段階評定で単純集計し自由記述は質的に分析した。42名が回答し（回収率61.8%）、臨地実習そのものに加え前学期で対面演習ができていない心配、COVID-19に感染する・させる怖さ、学内実習・オンライン実習となった場合の経験不足や就職への心配などが明らかになった。学生の思いとして、【感染予防を徹底できるのか】【実習（生）は受け入れられるのか】など10カテゴリーの不安と【不安・不利はない】という思い、教員への期待として【安全に実習をしたい】【早く情報がほしい】【学習への意欲】など7カテゴリーが抽出された。学生が多く不安を抱いていたことから、感染予防策の教育や知識・経験不足などを補える事前準備、学生への早い情報提供や説明の必要性が示唆された。

キーワード ■ 新型コロナウイルス, 看護学実習, 学生, 思い

## I. はじめに

看護学実習とは看護学教育最大の特徴であり、学生の基礎的な看護実践能力習得に不可欠な授業である<sup>1)</sup>。その実習を前にして学生は様々な不安を抱く<sup>2) 3)</sup>。医療現場での本格的な長期実習となる3年次の成人看護学実習では、医療分野が広く高度な専門性が問われるため、実習前のストレスや不安が高まることが明らかになっている<sup>4)</sup>。さらに今年度はCOVID-19感染が問題となり、4月30日～5月6日に全国の看護学生2,010名を対象に実施されたインターネット調査<sup>5)</sup>では、医療機関での実習が再開した場合の感染リスクや、実習スケジュールを心配する声が挙げられている。また、臨地実習が不可となった場合、学内演習で履修単位は認められるものの、「実際の病院で実習できないまま看護師になること」に、多くの学生が不安を感じていることも報告されている。

COVID-19感染拡大下において、本学も前学期の対面授業が中止となり、2年次の基礎看護学実習や4年次の臨地実習もオンライン実習となった。前学期を通常とは違う授業形態で学び、通常とは違う学生生活をすごした学生は、「遠隔授業のため行動が制限されてしんどい」、「集中が続かない」など、感染の心配とともに困惑した思いを抱えていたことが本学の学生アンケート結果<sup>6)</sup>にも示されている。その後もCOVID-19感染の収束の気配はなく、3年次の成人看護学および老年看護学の実習が目前に迫る中で、臨地実習が可能か、学内実習になるのか、あるいはオンライン実習となるのか、実習施設の受入れとともに本学としての方針も確定できない状況にあった。このような前例のない状況において、長期の実習に臨む学生の心境は通常の実習前よりも不安が強く困惑していることが推察された。また、教員にとってもCOVID-19感染拡大下での初めての实習であり、十分な感染予防対策とともに実習環境を整える必要があった。そこで、COVID-19感染拡大下で3年次の看護学実習に臨む学生の思いを明らかにし、学生への対応や準備、教育支援につなげたいと考えた。

## II. 目的

COVID-19感染拡大下で3年次の看護学実習に臨む学生の思いを明らかにすることである。

## III. 用語の定義

思い：「ある出来事について考えを持つこと。また、その内容。予想、予期、想像、願い、望み」<sup>7)</sup>。ここでは、実習に関する不安や心配、気持ち、期待、要望などとする。

看護学実習：従来の臨地実習に加え、学内実習、オンライン実習を含むものとする。

## Ⅳ. 研究方法

### 1. 研究デザイン：Google Forms を用いた質問紙調査法による実態調査研究

2. 対象者：看護学科において、3年次の成人看護学実習（急性期・慢性期）および老年看護学実習を履修予定の学生 68 名

### 3. データ収集方法

1) 調査期間：2020 年 9 月 1 日～9 月 7 日

2) 調査内容

先行研究<sup>8) 9)</sup>や看護 rool! 看護学生アンケート<sup>10)</sup>を参考に、Google Forms で自作の自記式調査票を作成した。調査票は①臨地実習、②臨地実習における COVID-19 感染のリスク、③学内実習・オンライン実習となった場合、④看護職としての将来、⑤教員への期待・求めること、の 5 つの内容で構成した（全 39 項目）。①～④はそれぞれ 5～10 項目の質問で構成し、それらの質問に対する思いの程度を「大いにそう思う」～「全くそう思わない」の 4 段階評定で求めた。また、その質問項目の中で「特に気になる項目」とその理由・具体的な内容・思っていることを尋ねた。さらに①～④について、その他の不安を自由記述で求めた。⑤教員への期待・求めることについても自由記述とした。調査票は 10 分程度で回答できる内容で、無記名式とした。

3) 調査方法

対象者の大学メールアドレスに研究協力依頼書と Google Forms の調査票を対象者のメールアドレスが他者から特定されないように Bcc で送信し、協力を求めた。調査票は「メールアドレスを収集しない」で設定し、個人が特定されないようにした。

調査への同意は、調査票に回答入力後の「送信」をもって得られたものとした。

### 4. 分析方法

①～④の思いについての 4 段階評定の結果と、特に気になる項目として選択された項目内容については単純集計した。特に気になる項目の自由記述内容は質的に分析した。また、その他の不安と教員への期待の自由記述に関しては、各項目間で類似する内容が散見したため、データ全体をコード化し、カテゴリーを抽出した。

### 5. 倫理的配慮

本調査は、佛教大学「人を対象とする研究」倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号：2020-19-B）。対象者にメールで研究協力依頼書を送信し、その文面で本調査の目的および協力の自由意思、中断の保障、プライバシーの保護、無記名での参加、成績評価には関係しないこと等を説明するとともに遵守した。回答により実習への不安が生じ、増強するリスクに対しては、申し出に教員が対応することを付記した。本調査結果は学部論集に投稿予定であり、閲覧可能であることも研究協力依頼書にて説明した。

## V. 結果

本調査には 42 名より回答があった（回収率 61.8%）。

### 1. 臨地実習について（図 1）

COVID-19 感染症の流行に関わらず、実習中に学生が不安を感じると予測される項目について尋ねた。〔いろいろと失敗しないか〕という漠然とした不安を 41 名（97.6%）の学生が感じており、他の項目についても、全て「大いにそう思う」「まあまあそう思う」が 85%以上を占めた。〔実習が楽しみだ〕への回答は「あまりそう思わない」が 20 名（47.6%）と最も多かった。

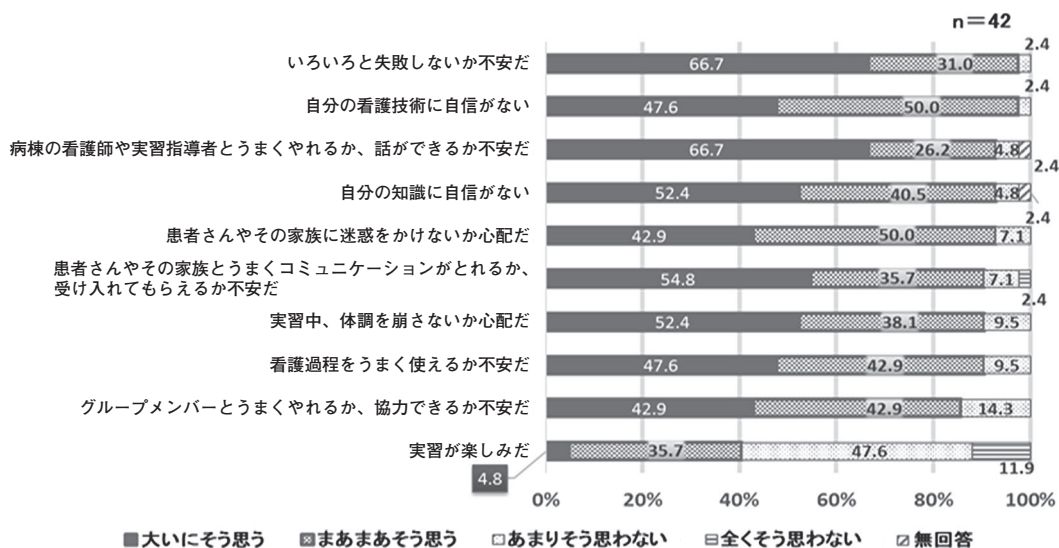


図 1. 臨地実習について

全 10 項目の中で特に気になる項目を選択し、その理由・具体的内容・思っていることについて記載があった 6 項目を回答数が多い順に表 1 に示す。

〔自分の看護技術に自信がない〕や〔看護過程をうまく使えるか不安だ〕を選択した学生は前学期に対面での演習・技術練習ができていないことを理由に挙げていた。〔いろいろと失敗しないか不安だ〕でも、技術練習や人とのかわりができていないことが理由として挙げた。患者・家族とのコミュニケーションや病棟の看護師・実習指導者との関係が特に気になると回答した学生は、COVID-19 感染拡大下で実習を快く受け入れてもらえるかを心配していた。

〔体調を崩さないか心配だ〕を選択した学生は、感染予防をしても COVID-19 に感染しない保証がないことや睡眠不足で免疫力が低下することをその理由に挙げ、単位修得についても心配していた。

表1. 臨地実習について特に気になる項目とその主な理由・具体的内容

n=39

特に気になる項目 * ( ) 内は回答数	その理由・具体的内容・思っていること
自分の看護技術に自信がない (8)	対面授業がなく、看護技術の練習や演習ができていない 演習と実践は違うから
実習中、体調を崩さないか心配だ (8)	COVID-19 に自分が感染しない保証がない COVID-19 に感染し、拡大させないか 睡眠不足・免疫力低下で感染症に罹患しないか 実習ができないと実習単位が取得できない心配
いろいろと失敗しないか不安だ (6)	対面授業がなく、人との関わりが減っている 看護技術の練習ができていない 初めての長期実習、うまく乗り切れるか
看護過程をうまく使えるか不安だ (6)	複数の看護問題の展開に不安 看護過程に自信がない・苦手 前学期は対面授業がなく、個人学習であったため
患者さんやその家族とうまくコミュニケーションがとれるか、受け入れてもらえるか不安だ (4)	うまくいかなかった過去の経験・自分の要因 COVID-19 の感染源にならないか COVID-19 感染下で快く受け入れてもらえるか
病棟の看護師や実習指導者とうまくやれるか、話ができるか不安だ (4)	病棟により環境が違うのでいつも不安 過去の経験から何を聞けば怒られないかばかり考える COVID-19 関連の看護師のストレスが学生に影響しないか心配

## 2. 臨地実習における COVID-19 感染のリスクについて (図2)

〔臨地実習中に患者さんやその家族、医療者、実習メンバー等に感染させないか不安だ〕は、「大いにそう思う」が34名(81.0%),「まあまあそう思う」が8名(19.0%)で全員が不安と回答した。〔実習前に陽性あるいは濃厚接触者となることで実習が中止になり、皆に迷惑をかけるか不安だ〕および〔自分が感染しないか不安だ〕は、いずれも「大いにそう思う」「まあまあそう思う」が39名(92.9%)であった。

〔感染予防として、実習中の具体的な方法・行動がイメージできない〕には「大いにそう思う」「まあまあそう思う」と35名(83.3%)の学生が回答した。〔感染予防行動を守り、自己管理をしていれば大丈夫だ〕では、「大いにそう思う」「まあまあそう思う」と回答した学生は16名(38.1%)であった。

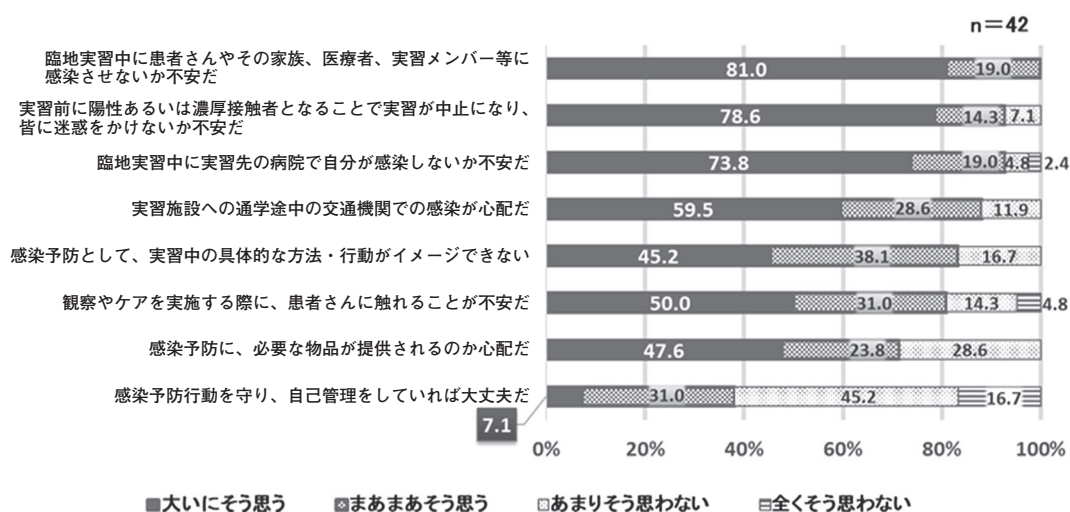


図2. 臨地実習における COVID-19 感染のリスクについて



特に気になる項目に 34 名が回答した。多く選択された 2 項目を表 2 に示す。〔臨地実習中に患者さんやその家族、医療者、実習メンバー等に感染させないか不安だ〕を 22 名（52.4%）が挙げた。感染させる対象としては、「患者」「（自身の）家族」が多かった。また、この項目を選択した理由として、患者が重症化し生命に関わることの責任の重大さや責めを負いたくないという思いや、「感染予防をしている医療従事者も感染する」「病気をもつ家族が心配」などの記述もあった。

〔実習施設への通学途中の交通機関での感染が心配だ〕を挙げた学生は 5 名（11.9%）であった。

表 2. 臨地実習における COVID-19 感染のリスクについて特に気になる項目と主な理由・具体的内容  
n=34

特に気になる項目 *（）内は回答数	その理由・具体的内容・思っていること
臨地実習中に患者さんやその家族、医療者、実習メンバー等に感染させないか不安だ（22）	他者への感染の心配（13）：患者（7）、家族（5）、友人、医療者など 無症状のまま患者に感染させる怖さ/患者の生命に関わる 病気をもつ家族が心配/感染を防ぎたいので家に帰りたくない 感染予防をしている医療従事者も感染する 患者に警戒されないか、不安に感じると申し訳ない 学生が感染することの大学・病院・将来への影響・責任の大きさ 責めを負いたくない 実習中の体力低下で感染する心配/インフルエンザと重なる心配
実習施設への通学途中の交通機関での感染が心配だ（5）	混雑による感染 長時間の利用での感染 電車で感染しても無症状で分からないまま実習することの怖さ

### 3. 学内実習・オンライン実習となった場合について（図 3）

「大いにそう思う」または「まあまあそう思う」の回答が多かった項目は、〔どのような実習になるか分からなくて不安だ〕、〔臨床での経験不足になることが心配だ〕であり、それぞれ 37 名（88.1%）、36 名（85.7%）であった。〔学内実習で感染しないか・させないか〕は、24 名（57.2%）であった。

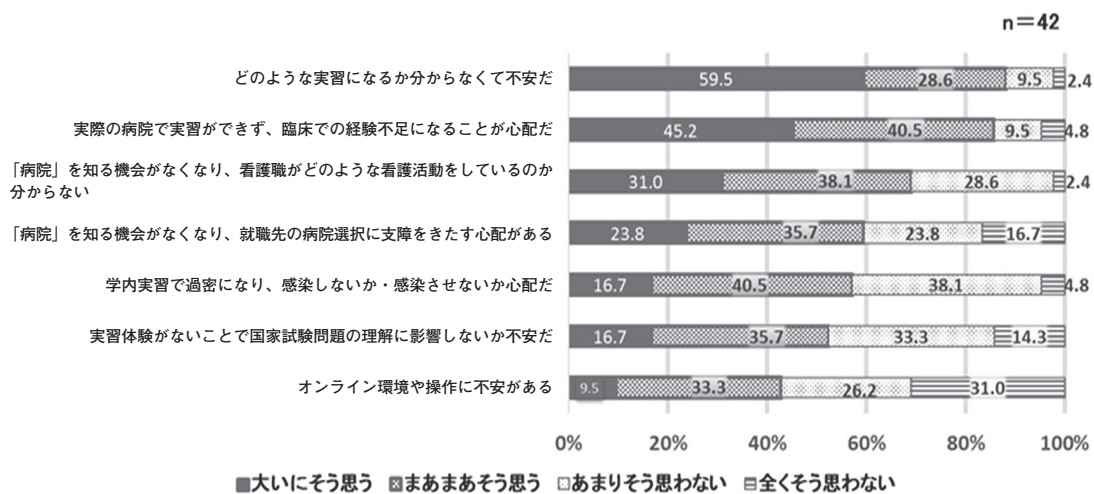


図 3. 学内実習・オンライン実習となった場合について

特に気になる項目として選択された結果を表3に示す。〔実際の病院で実習ができず、臨床での経験不足になることが心配だ〕を挙げた学生は11名(26.2%)で、「働いてからの自分が想像できず不安」、「就職後不利になる可能性があるのでは」などの就職や就職後への不安があった。また、臨地実習ができないことの経験不足よりも、感染した場合の社会の反応(報道)が人生に影響することを心配する思いもあった。

表3. 学内実習・オンライン実習となった場合について特に気になる項目と主な理由・具体的内容

n=32

特に気になる項目 * ( ) 内は回答数	その理由・具体的内容・思っていること
実際の病院で実習ができず、臨床での経験不足になることが心配だ (11)	就職や就職後への不安 臨地実習ならではの経験が不足する 目標とする看護や看護師がみつからない 経験不足よりも感染した場合の報道や人生への影響を感じる
どのような実習になるか分からなくて不安だ (7)	イメージがつかない 予定がわからない 感染予防の具体策がわからない
学内実習で過密になり、感染しないか・感染させないか心配だ (4)	感染予防意識の違い：意識の低さに危機感がある
実習体験がないことで、国家試験問題の理解に影響しないか不安だ (4)	実習特有の学びがある 実習での経験が理解につながる 座学のみより実習は自分のためになる
「病院」を知る機会がなくなり、就職先の病院選択に支障をきたす心配がある (3)	働く「科」を実習に行って決めたい 実習は病院を知る大事な機会 患者との関わりで生まれる感情や考え方が進路決定に重要
オンライン環境や操作に不安がある (2)	PCの貸し出しや購入等の対応が必要
「病院」を知る機会がなくなり、看護職がどのような看護活動をしているのか分からない (1)	今の自分が見たいと思うことを見れないことに不安

#### 4. 看護職としての将来について (図4)

「大いにそう思う」または「まあまあそう思う」が多かったのは、臨地実習ができなかった場合、「病院実習が十分にできないまま卒業するのは心配だ」33名(78.6%)、「今後どう言われるか不安だ」29名(69.1%)、「あまり患者さんに接したことがないままであることが不安だ」27名(64.3%)であった。この中で「今後どう言われるか不安だ」は「大いにそう思う」が18名(42.9%)と最も多かった。

一方、「COVID-19感染問題の影響で、看護職になる気持ちが揺らいでいる」「COVID-19感染問題の影響による偏見や待遇等を考え、看護職になる気持ちが揺らいでいる」では、「あまりそう思わない」または「全くそう思わない」と80%以上が回答した。

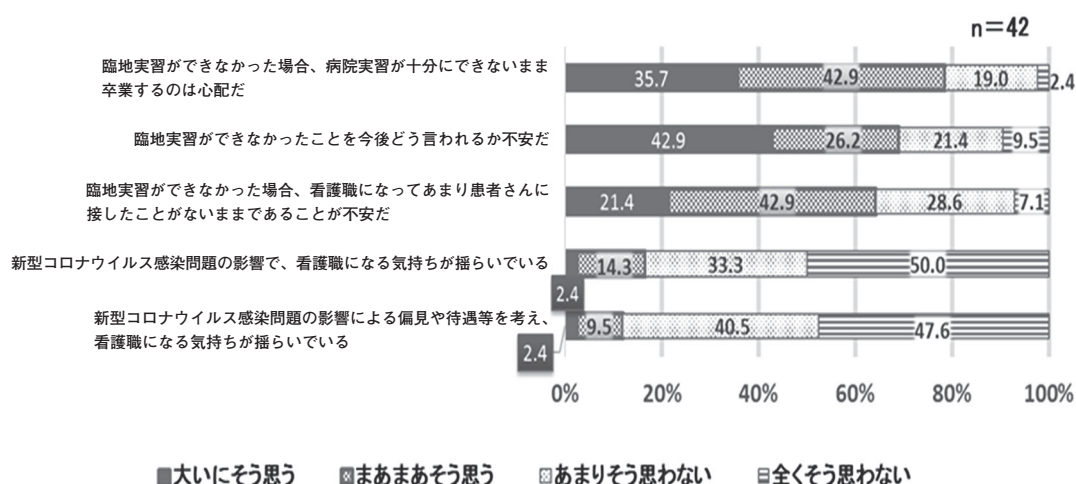


図 4. 看護職としての将来について

特に気になる項目に 24 名が回答した。多く選択された 3 項目を表 4 に示す。〔臨地実習ができなかった場合、病院実習が十分にできないまま卒業するのは心配だ〕を挙げた学生は 12 名 (28.6%) であり、「知識・経験の不足」が主な理由であった。また、「実習不足を前提に卒後教育される」という心配や「経験より感染が心配」もあった。

表 4. 看護職としての将来について特に気になる項目と主な理由・具体的内容

n=24

特に気になる項目 * ( ) 内は回答数	その理由・具体的内容・思っていること
臨地実習ができなかった場合、病院実習が十分にできないまま卒業するのは心配だ (怖い) (12)	知識と技術が定着するか 知識・経験の不足 / 臨床で働くことができるか 実際の患者で看護過程を活用できないこと 実習不足を前提に卒後教育されるか 経験より感染が心配：感染、死亡させたら生きていていいのかと考える
臨地実習ができなかったことを今後どう言われるか不安だ (6)	世間からの目が怖い 経験不足だとみなされる 臨地実習ができなくても自分の努力次第
臨地実習ができなかった場合、看護職になってあまり患者さんに接したことがないままであることが不安だ (5)	実習が無いまま臨床に出ること 自分の看護師としての適性がわからない コミュニケーション技術 就職後の苦労が大きくなるかもしれない

## 5. その他の不安

その他の不安に回答した 38 名の記述内容は、10 カテゴリーに分類された (表 5)。カテゴリーを【】, サブカテゴリーを〈〉で示す。

【自分が感染しないか】や【感染源・媒介者とならないか】、【感染予防を徹底できるのか】、【実習 (生) は受け入れられるのか】の内容は前述の 1. ~ 4. で述べた結果と重なる不安であった。さらに、〈単位はどうなる〉など【感染した場合の気がかり】、【実習がどうなるのか分からない】、【オンライン・学内実習で大丈夫か】、【オンライン実習の難しさ】という実習方法への不安が抽出された。また、〈技術練習をする時間がない〉などの【自己の課題】、〈「実習にい



けなかった看護師」というラベリング」など【卒後教育・臨床での課題】もあった。

表5の不安のカテゴリーに含まれなかったものとして、【不安・不利はない】が抽出され、内容は「将来に対する不安はない」「看護職としてなすべきことは変わらない」や、「臨地実習がなくても自主的な学習で補えるので不利はない」であった。

表5. COVID-19 感染拡大下で看護学実習に臨む学生の不安

n=38

カテゴリー	サブカテゴリー
自分が感染しないか	病院で密になる心配 行き帰りの交通機関での感染 病院でのメンバーとの合流 実習で免疫力が低下し感染リスクが高まる
感染源・媒介者とならないか	病院内、患者、自分の家族の感染源・媒介者となる心配 病院でのクラスターの原因とならないか 患者の命を奪うことがあれば一生負い目を感じるようになる大きな不安
感染した場合の気がかり	単位はどうなる 大学の対応 感染した学生を自他ともに責める心配 差別や偏見の対象となる怖さ 不利益を考え不安や症状を申告しない危惧
感染予防を徹底できるのか	対策していたら大丈夫か 十分な感染予防行動をしても感染リスクは無くならない 感染予防対策がされているか 自分が確実に感染予防を徹底できるのか
実習（生）は受け入れられるのか	万全にコロナ対策をしていれば実習に行けるのか 面会制限があるのに患者・家族に受け入れてもらえるか
実習がどうなるのか分からない	過密日程や課題に適應できるか、 コロナの影響はどうなるのか
オンライン・学内実習で大丈夫か	実習の質の低下 就職活動への影響 自分の力がつくか 実習方法の情報がなくスムーズにできるのか
オンライン実習の難しさ	他学生の学習の様子が分からない（差が出ていないか） 全てパソコン作業で入力に思考が回る 情報共有・コミュニケーションが難しい 経済的・技術的サポートが必要
自己の課題	患者・指導者とのコミュニケーション力 毎回の実習で不調になる体調 技術練習をする時間がない 看護過程ができるか（グループワークができていない）
卒後教育・臨床での課題	実習経験が少なくても就職先の教育システムで学べるか 看護師になってからの技術力 将来、苦手なカンファレンスにしっかり参加できるか 「実習にいけなかった看護師」というラベリング

## 6. 教員への期待・求めること

28 名が回答し、記述内容は 7 カテゴリーに分類された（表 6）。カテゴリーを【】、サブカテゴリーを〈〉で示す。

学生の思いとして、〈実習機会を失うことより病院や患者の不安を思う〉など【臨地実習への戸惑い】や〈不安はみんな一緒〉〈臨地実習がしたい〉などの【実習への意欲】が抽出された。学生のニーズは、〈安全のために臨地実習は控えたい〉などの【安全に実習をしたい】、〈実習について決まっていることは少しでも早く知りたい〉などの【早く情報がほしい】、〈実習方法の判断理由を説明してほしい〉などの【説明がほしい】であった。また、【オンライン・学内実習での期待】や【教員の対応への期待】も抽出された。

表 6. COVID-19 感染拡大下で看護学実習に臨む学生の教員への期待・要望

n=28

カテゴリー	サブカテゴリー
臨地実習への戸惑い	オンラインや学内実習で経験不足となる不安と感染源になる心配 行かないことの不安より感染したり感染源になる不安 実習機会を失うことより病院や患者の不安を思う 病院内での実習ができない不安と感染源となる心配：「気が引ける」 なぜ臨地実習が中止されないのか
実習への意欲	どちらも意欲的に取り組みたい 不安はみんな一緒 臨地実習がしたい
安全に実習をしたい	臨地実習なら、実習期間を半分減らしてほしい 臨地実習なら、感染防止や感染時の対応を考えてほしい 安全のために臨地実習は控えたい 命にかかわるので安全なオンライン実習なら安心 感染リスクを考えるとオンライン実習でも良い
教員の対応への期待	指導は細部まで統一してほしい 提出した課題へのコメントがほしい 悩みを真摯に聴いてほしい 悩みや愚痴を言える雰囲気にしてほしい
早く情報がほしい	実習がどうなるのか、実習方法を早く決めて知らせてほしい 実習について決まっていることは少しでも早く知りたい 実習方法・実習先を早く知りたい
説明がほしい	実習方法の判断理由を説明してほしい 臨地実習をする場合の大学の説明がほしい（安全性） 臨地実習をしないという大学の判断と説明がほしい（感染回避） 臨地実習をするなら対策の説明と指導をしてほしい
オンライン・学内実習での期待	患者役が実際の患者のように振る舞えるといい 別の機会に（見学など）設けてほしい 提出物は筆記でも可にしてほしい

## VI. 考察

### 1. COVID-19 感染拡大下で看護学実習に臨む学生の思い

#### 1) 臨地実習について

重岡ら<sup>11)</sup>は、成人看護学実習では医療分野が広く高度な専門性が問われるため、実習前のストレス感情や不安状態を示す得点が高かったと報告している。今回の調査においても 85%

以上の学生が不安を感じており、実習前の不安が強いことが伺える。また、看護過程に関する不安は通常の実習前にもあったが、今回、看護技術への自信のなさが挙げられた背景には前学期に対面での演習や練習ができていない現状があり、学生の不安を強める理由となっている。

体調を崩さないか不安に思う学生は、COVID-19感染の心配とともに、単位修得ができなくなることを心配していた。学生の不安(表5)の【感染した場合の気がかり】にも〈単位はどうか〉〈大学の対応〉があり、COVID-19感染者や濃厚接触者になった場合の大学の対応を説明する前の調査であったことが影響していると考えられる。

## 2) 臨地実習における COVID-19 感染のリスクについて

回答者全員が「臨地実習中に(自分が媒体となって)患者さんやその家族、医療者、実習メンバー等に感染させないか不安だ」と感じていた。その要因としては、感染しても一部の人間(特に若い世代)は無症状であること<sup>12)</sup>、さらに「感染予防をしている医療従事者も感染する」「どこで感染するかわからない」など、報道されているCOVID-19の特徴が影響していると考えられた。

感染予防について、「実習中の具体的な方法・行動がイメージできない」が83.3%であり、学生の不安(表5)の【感染予防を徹底できるのか】でも〈自分が確実に感染予防を徹底できるのか〉が抽出されている。手洗いなど標準予防策は2年次に学んでいるが、臨地での経験が十分になく、その技術を使う自信がないことも不安の要因といえる。

また、実習施設への交通機関での感染への心配もあった。3年次の3～4施設での実習を控えて、慣れない交通機関や長時間利用、混雑に伴う感染リスクを感じていた。

## 3) 学内実習・オンライン実習となった場合について

「どのような実習になるかわからなくて不安だ」と感じている学生が多かった。本調査の時点では教員は臨地実習の可能性を探っており、代替実習について十分な説明ができない現状があったためと考えられる。

また、「実際の病院で実習ができず、臨床での経験不足になること」に不安を感じている学生も多く、看護roo!看護学生アンケート<sup>13)</sup>でも多くの学生が同様の不安を募らせていた。さらに、学生の不安(表5)の【オンライン・学内実習で大丈夫か】でも実習の質への心配が表出された。臨地実習の長所は、看護が展開される実践の場に即した知識や技術、そして態度の習得を可能にすることである<sup>14)</sup>。代替実習の場合には、臨地実習での学びに相当すると学生が感じられるような内容とすることが課題となる。

一方、臨地実習ができず経験不足になることよりも、感染した場合の社会の反応が人生に影響することを心配する回答もあった。また、学生の不安(表5)の【感染した場合の気がかり】でも、〈感染した学生を自他ともに責める心配〉〈差別や偏見の対象となる怖さ〉があり、感染

とその後の報道を含めた社会的影響を恐れ、臨地実習に積極的になれない思いもあることを理解する必要がある。

さらに、【オンライン実習の難しさ】が抽出されており、前学期にオンライン授業を経験してきた学生ならではの不安といえる。

#### 4) 看護職としての将来について

看護 roo! 看護学生アンケート<sup>15)</sup>では約90%の看護学生が「これまでと変わらず看護師として働く」と回答したが、本調査でも「COVID-19 感染問題の影響による偏見や待遇等を考え、看護職になる気持ちが揺らいでいる」に80%以上の学生が「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と回答し、学生の意思是揺らいでいないことが確認された。

しかし、臨地実習ができない場合、将来への影響を不安に感じている学生が多く、学生が臨地実習を将来に向けての大切なステップと捉えていることも確認された。

## 2. COVID-19 感染拡大下での看護学実習の課題

学習の成立には、①学習者、②学習課題、③学習方法、④学習環境の4条件が影響する<sup>16)</sup>。学習者に関わる条件には心身の準備状態と健康、動機づけなどが含まれるが、学習環境である実習施設がCOVID-19 感染拡大により緊張が高まっている状態で、学生達も心身の準備が十分に整わない状況にある。そのため、COVID-19 感染拡大下では学習の成立が困難な状況にあるといえる。「教員への期待・求めること」に【安全に実習をしたい】があるように、学生の心配を教員が理解し、実習前に感染対策や健康管理の教育を再度実施していく必要がある。交通機関での感染予防には、実習開始時間の調整や帰宅時間の配慮が必要である。また、本調査結果を臨地実習指導者に伝え、実習施設の感染予防対策の説明や指導など、学生の不安軽減への協力を依頼することも有用である。

さらに今回、学習方法も変化した。前学期に対面授業がなかったことによる看護実践への不安には、実習前にe-ラーニングを活用した看護技術の復習や自宅での練習、オンラインでの演習で補い対応することが求められる。オンライン実習となった場合には、学生の負担を考慮し進めていく必要がある。

「教員への期待・求めること」には、〈悩みを真摯に聴いてほしい〉など【教員の対応への期待】があり、学生の不安に真摯に向き合い、対応することが求められている。また、【早く情報がほしい】【説明がほしい】が示すように、情報が不確かなことによって不安が強まっていた可能性がある。判断が難しい状況も含めて学生へのタイムリーな情報提供が課題となる。さらに、学生が安心して看護職に就けるよう、臨床側にCOVID-19 感染拡大下での学生の学習状況を伝え、共に教育について考えることも重要となる。

### 3. 本研究の限界と課題

本調査は回収率61.8%であり、学生全員の思いを反映しているとは言えない。また、回答内容を深く探ることができないという質問紙調査の限界もあった。しかし、不安を含め、学生の様々な思いは抽出できたと考える。

本調査結果を踏まえ COVID-19 感染拡大下での看護学実習に対応すること、また看護学実習終了後の学生の思いを知ることも必要と考える。

## VII. 結論

1. COVID-19 感染拡大下での臨地実習には、前学期で対面演習ができていないことによる実践での心配、感染する怖さ、自分が媒体となる怖さ、迷惑をかける心配などがあった。
2. 学内実習・オンライン実習には、85%以上の学生が臨床での経験不足や実習内容への不安を感じていた。また、学内での感染リスクや、就職への心配、将来への影響などの不安があった。
3. 看護職としての将来に80%以上の学生は揺らぎがなかったが、臨地実習で感染者・媒体者となった場合の将来を心配していた。
4. 自由記述で抽出された学生の思いは、【感染予防を徹底できるのか】、【実習（生）は受け入れられるのか】など10カテゴリーの不安と【不安・不利はない】で構成された。教員への期待として【安全に実習をしたい】【早く情報がほしい】【説明がほしい】など7カテゴリーが抽出された。
5. 学生が多く不安を抱いていたことから、感染予防策の教育や知識・経験不足などを補える事前準備、学生への早い情報提供や説明の必要性が示唆された。

## 謝辞

本研究にご協力いただいた学生の皆様に感謝申し上げます。

### 〔文献〕

- 1) 舟島なをみ, 亀岡知美, 他11名: 看護学教育における授業展開, 第2版, 医学書院, 東京, 2020, 205.
- 2) 櫻井美奈, 中原り子, 他3名: 看護系大学生の領域別実習における不安, 達成感, 自己効力感の関連, 共立女子大学看護学雑誌, 5, 7-15, 2018.
- 3) 大村郁子, 藤長すが子, 他2名: 看護学生の抱える実習における困難・不安・ストレスに関する研究動向, 日本看護学会論文集 看護教育, 49, 39-42, 2019.
- 4) 重岡秀子, 池本かづみ, 他2名: 成人看護学実習前・後における学生が感じるストレス感情と不



安状態の実態，健康科学と人間形成，2（1），17-26，2016.

- 5) 看護 roo！看護学生アンケート，<https://www.kango-roo.com/work/7538/>（2020. 8. 8 閲覧）
- 6) 佛教大学 学生相談センター：遠隔授業 学生アンケートの報告，2020 年 6 月 30 日危機対策本部会議 報告資料 No. 1.
- 7) 小学館 デジタル大辞泉，<https://japanknowledge.com/lib/display/?lid=2001002560200>（2020. 9. 28 閲覧）
- 8) 前掲 4)
- 9) 籠 玲子，佐藤美紀，他 6 名：事前学習の取り組みによる基礎看護学実習前の看護学生の不安の変化，愛知県立大学看護学部紀要，19，61-66，2013.
- 10) 前掲 5)
- 11) 前掲 4)
- 12) 診療の手引き検討委員会：新型コロナウイルス感染 診療の手引き第 3 版，2020.
- 13) 前掲 5)
- 14) 前掲 1)，7.
- 15) 前掲 5)
- 16) 細谷俊夫，他：新教育学大辞典 2，81，第一法規出版，東京，1990.

（たかおか ひさえ 看護学科）

（いしどう たまき 看護学科）

（やぶした やえ 看護学科）

2020 年 10 月 9 日受理